

2010年3月18日

各位

会社名 イオン株式会社  
代表者名 取締役兼代表執行役社長 岡田 元也  
(証券コード 8267)  
問合せ先 執行役 岡内 祐一郎  
(電話番号 043-212-6042)

## 特別利益の計上および業績予想の修正に関するお知らせ

2010年1月7日付「2010年2月期 第3四半期決算短信」において公表した2010年2月期(2009年3月1日~2010年2月28日)の連結業績予想につきまして、最近の業績の動向等を踏まえ、下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

### 記

#### 1. 連結業績予想の修正について

2010年2月期の連結業績予想の修正(2009年3月1日~2010年2月28日) 単位:百万円

	営業収益	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	5,240,000 超	130,000~140,000	130,000~140,000	7,500~15,000
今回修正予想(B)	5,050,000	128,800	128,300	23,500
増減額(B-A)	190,000	1,200~ 11,200	1,700~ 11,700	16,000~8,500
増減率	3.6%	0.9~8.0	1.3~8.4	213.3~56.7
前期実績(2009年2月期)	5,230,786	124,373	126,030	2,760

#### 2. 特別利益の計上および連結業績予想修正の理由について

小売業を取り巻く厳しい消費環境のもと、上期は、お客さまの節約志向に対応した低価格化による客単価の低下や天候等の影響を受け売上高の減少に加え、価格左寄せ先行による荒利益率悪化もあり営業利益も前期より約230億円減益となりました。しかしながら、下期は、収益構造改革が進むとともに総合小売事業中心に進めた低価格戦略やお客さま志向の販促が奏功し、客数・買上げ点数増加につながりました。これにより売上高の既存比の減少幅は、縮小するとともに、イオンリテール(株)が先行した収益構造改革による経費の削減はグループ全体に拡がり、期首計画を大幅に上回りました。さらに、米国タルボット社の業績回復もあり、営業利益は前期より約275億円増加する見通しです。結果、前期比で営業収益は減収となったものの営業利益、経常利益は増益を確保する見通しです。

また、当社は、当社及びグループ各社が加盟しているイオン企業年金基金において、数年来検討してきた結果、社会を取り巻く環境の変化に対応し持続可能な給付を実現できる新退職給付制度を導入することといたしました。新制度への移行に伴い、過去勤務債務の一括処理で発生する退職給付引当金戻入額を下期の特別利益として計上いたします(当期純利益への影響額は約100億円)。

当期純利益については、営業利益の改善およびGMS事業を中心とした店舗の収益構造改革が進み、期首の想定から減損損失等が減少し、当該特別利益計上前の数値において前回予想を達成する見込みです。また、前回予想算定には織り込んでいない当該特別利益計上による当期純利益への影響額約100億円をくわえることにより、前回予想の上限である150億円を大幅に上回る見込みとなりました。

\* 上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の実績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以上